R7年度　鼓ヶ浦中学校 学校経営の改革方針

◇鈴鹿市のめざす子どもの姿

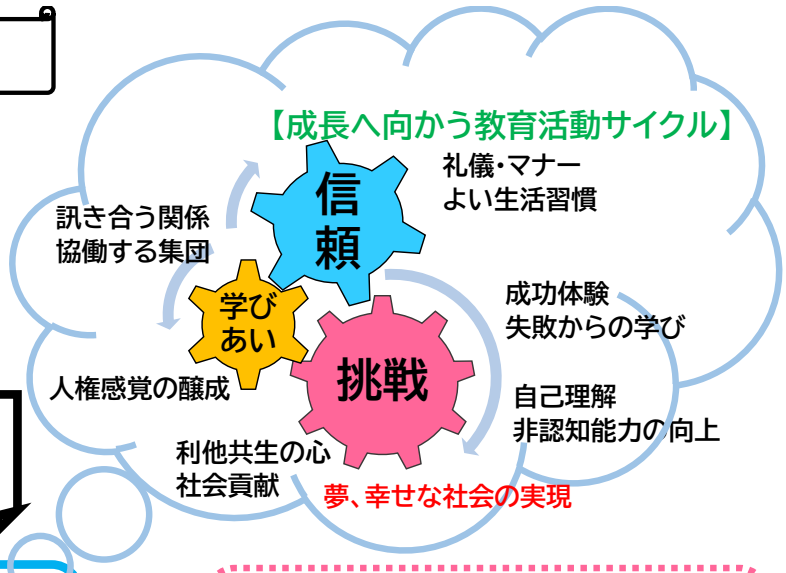
人とつながり自ら豊かな未来を切り拓く鈴鹿の子ども

◇鈴鹿市の基本理念

誰もが輝きウェルビーイングが高まる鈴鹿の教育

◇学校教育目標(理念)

「信頼と挑戦」　すべては生徒のために。生徒主体の教育活動を推進する。
「根」を育てる教育(生涯を支える心技体)を推進する。
家庭・地域・学校の連携による凡事徹底の指導支援を推進する。



【めざす生徒像】
①互いに信頼しあい
協働的に学校生活を創造できる生徒
②自ら学び、失敗を恐れず挑戦し続ける生徒

【めざす学校像】
「来てよかった，明日も来たい」と思う学校
①信頼関係で結ばれた学校
②挑戦し続ける、活気あふれる学校

【めざす教師像】
①互いに信頼しあい
協働的に教育活動のできる教師
②専門性を高め、未来を見据え挑戦し続ける教師

	重点目標	現状と課題	行　動　目　標	具体的な行動計画	評価指標(数値目標)　追加　青字R7目標値
特色ある教育活動の創造	学びあう集団作り	○ペア・グループ活動でかかわりあう場面が多かった。 ○比較的落ち着いた環境で学習を進めることができる。 ○習熟度別授業により、わかるできる場面が増えた。 ●読解力、発表、表現する力が身についていない。 ●さらに安心して訊き合う関係ができる雰囲気を作る。 ●振り返りから学びを組み立てられる習慣をつける。	訊き合う関係のある主体的な学びの集団作り ・誰一人取り残さない学びあう授業づくりが基本。 ・課題のある生徒に配慮したわかる、できる授業展開の工夫。 ・個別最適な生徒主体の学び方の創造。 ・アウトプットのある協働的な学びの創造。 ・教員のファシリテータースキルの向上。 ・居心地の良い関係づくりの推進。	①授業改善 ・生徒主体となる学習活動の組み立ての工夫。 ・ルーブリック(学習到達度目標)による「めあて」「振り返り」の充実。 ・共有場面での効果的なスプレッドシートの活用。 ・生徒の対話促進のための、教員の「聴く(訊く)」「つなぐ」「もどす」「ケア」技術の向上。 ②学級経営 ・規律の徹底。・安心できる仲間づくり。GWT推進。 ③校内研修 ・教員が能動的に学びあうプチ研修の充実。	「人が困っているとき進んで助けている」 ・生徒アンケート　R6:89.9%　⇒92% 「自分から進んで勉強に取り組んでいる」 ・生徒アンケート　R5:75.7　R6:66.8　⇒70% 「自分の考えと比較しながら友達の考えを聞いている」 ・生徒アンケート　R5:72.5　R6:80.8　⇒80% 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」 ・生徒アンケート　R6:76.3%　⇒80%
	個に応じた支援体制の充実	○教員・生徒・保護者間の信頼関係ができている。 ○組織的な学校全体の支援体制ができている。 ○誰一人取り残さない学びあいを大切にしている。 ○課題のある生徒、不登校の支援が進んだ。 ●学級でのユニバーサルデザインと個別支援の手立て。 ●学年での計画的で粘り強い不登校生徒対応。 ●非認知能力(自己肯定感)の育成。	生徒理解に基づく信頼関係の構築 ・生徒理解のためのかかわりと信頼関係づくりの推進。 ・日常的な保護者との信頼関係づくり。 ・教員のコーチングスキルの向上。 ・普通教室における特別支援教育の推進。 ・特別支援Coを核とした、支援体制の推進と充実。 ・生徒指導主事を核とした問題行動の早期発見と解決のための効果的アプローチの推進。 ・生徒による日常的な課題啓発活動の推進。	①生徒理解 ・雑談、傾聴、家庭連携。 ・教育相談の充実。(QUの活用) ・「ほめる」「認める」「励ます」良い行動の強化。 ・コーチングによる寄り添い見届ける生徒指導。 ②普通教室内での支援環境づくり ・掲示物、指示の工夫、みんなでできるSST。 ③保護者連携 ・面談推進。　・SC医療連携。　・ミニケース会議推進。 ④生徒会・委員会の活性化 ・生徒の企画・運営による生活改善活動の推進。	「困ったとき，学校の先生に相談できる」 ・生徒アンケート　R5:80.7　R6:75.2　⇒80% 「先生はわたしのよいところを認めてくれる」…校区連携 ・生徒アンケート　R5:93.7　R6:91.5　⇒95% 「学校に行くのは楽しい」　⇒安心度が進む ・生徒アンケート　R5:82.3　R6:81.9　⇒85% 「友達関係に満足している」 ・生徒アンケート　R6:90.7%　⇒93% 不登校生徒数の減少(12月末)R5:31人　R6:18人⇒維持
	豊かな教育の創造	○進路学習、職場体験学習、先輩・後輩の交流を通して3年間で生き方や将来を考える場面を計画的に作った。 ○平和学習、地元の文化を受け継ぐ方たちとの出会いやブックトーク等を通して、生き方・考え方を深めた。 ○ノーチャイムデーや無言清掃、挨拶運動など生徒主体の活動があった。 ●生徒会・委員会活動がさらに活性化していくとよい。 ●支援を嫌がる、人と違うことを隠す空気がある。	自己理解と非認知能力の向上 ・社会との繋がりを感じられるキャリア教育、自己肯定感を高める人権教育を積み上げることで、自分の生き方・在り方をみつめ、目標・夢に向かう意欲を高める。 ・個別の特性に応じた学びの多様性を尊重する風土を醸成する。 ・様々な経験を通して、生徒の非認知能力(特に自己肯定感)を高める活動を推進する。 ・人との出会いを通して、礼儀・マナーを身につけ、社会における自分の役立て方を考えさせる。	①キャリア教育 ・職業調べ、職場体験学習、企業訪問、地域課題解決学習、学年間の交流学習の充実。 ・地域行事や奉仕活動への参加促進。 ②人権教育 ・特別支援学級、通級教室での学びの理解と尊重。 ・出会い学習、人権フォーラム等行事の充実。 ③教養、情操教育 ・読書活動の推進。 ・スポーツ教室、文化講演会等の全校開催。 ④校内行事を通しての成長 ・目標とふりかえり、いいとこ探し。	「将来の夢や目標を持っている」 ・生徒アンケート　R5:69　R6:72　⇒75% 「将来の進路や職業について適切に指導している」 ・保護者アンケート　R5:80.5　R6:82.2　⇒85% 「クラスでは人に対する思いやりが大切にされている」 ・生徒アンケート　R5:78.1%　R6:82.7　⇒85% 「幸せな気持ちになる」・生徒アンケート　R6:88.1%　⇒90% 「自分には良いところがある」 ・生徒アンケート　R6:66.9%　⇒70% 「いじめは絶対いけない」・生徒アンケート　R6:92.4%　⇒95%
開かれた学校づくり	教育課題の共有	○定期的な学校・学年・進路通信の発行により、保護者地域に教育課題をおおよそ発信することができた。 ○授業参観WEEKや保護者会を適宜設けることで、実態を保護者や地域に知ってもらうことができた。 ●通信・メール配信等どの学年も積極的に行えるとよい。 ●保護者・地域・学校三者で教育を進める必要がある。 ●HPの更新はあまり進まなかった。	教育課題の共有と役割分担 ・学校、家庭、地域で、学校教育方針や生徒の様子、課題を共有することにより、それぞれの立場からの理解を促進する。 ・三者の役割を明確にし、連携した教育活動を推進する。 ・情報通信手段を用いて、計画的・効率的に、広く情報を発信・提供していく。	①学校の開放 ・授業参観WEEK,保護者懇談会等の効果的開催。 ・体育祭・文化祭の参観。 ・学校運営協議会での熟議。 ②情報発信 ・学校・学年・各担当からの定期的な通信。 ・クラスルームからのタイムリーな配信。 ・tetoruからの緊急時の配信。 ・学校教育活動への理解を促す地域、校区回覧。	「学校は教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」 ・保護者アンケート　R5:72.7　R6:73.4　⇒75% 「情報を家庭に積極的に提供している」 ・保護者アンケート　R5:88.3　R6:88.9　⇒90% 「学校は参観・保護者会等で保護者の意見を聞く」 ・保護者アンケート　R5:84.7　R6:89.6　⇒90% 学校だよりは地域回覧をする　⇒継続
	PDCAサイクルの運用	○学校アンケートを分析し、生徒の実態とともに改善策を考え実行することで、成果もでてきた。 ○全国学調・みえスタは速やかに採点、全体で協議でき校区でも交流し、小中連携を進めることができた。 ●チェック、アクションまでいかない課題もある。	データと実態に基づくPDCAの構築 ・各種アンケート結果を全教職員で分析し、課題を把握し、改善計画をたて、実行する。 ・学校行事や学年運営にかかわっては、定期的評価を行い、改善策を考えたり、短期目標を明確にする。	①全教員による課題の共有 ・全国学調・みえスタの自校採点と分析。 ・学校生活アンケートからの課題の共有。 ・全教員による学校評価の作成。 ②課題改善と評価 ・課題に対する全教科での授業改善。 ・各部会による課題解決へむけたアプローチの検討。	「学校は自信が持てるよう教え方を工夫している」 ・保護者アンケート　R5:80.1　R6:78.2　⇒82% 「学校はいじめや暴力が起きた時に適切に対応している」 ・保護者アンケート　R5:83.0%　R6:84.0　⇒90% 家庭や地域の学校への理解や協力　⇒推進
	地域との協働	○作業日を設け、全生徒と教員で奉仕活動ができた。 ○年2回の海岸清掃は，部活動単位で参加した。 ○有志生徒が老人会行事・ラジオ体操・夏祭りにも参加し、地域の活性化を助けた。 ●津波避難訓練の地域発信が弱かった。 ●PTA活動において保護者と地域の連携が難しい。	利他共生の心の醸成 ・生徒の基本的生活習慣・マナー・礼儀などは、日常的に、家庭、地域とともに連携して身につけさせていく。 ・仕事を通して、人の役に立つ喜びを体験させることにより、生徒の自己肯定感を高める。 ・地域社会の様々な場面での人との関わりから、見聞を広め、生徒が理想の姿を描けるように支援する。 ・地域と連携した地震防災学習を推進する。	①奉仕活動の推進 ・委員会からの啓発活動推進。 ・自己を見つめる清掃活動の実施。(無言清掃) ・校内生徒作業日(奉仕活動)の実施。 ②地域ボランティア行事への参加 ・部活動・委員会活動・有志による海岸清掃、老人会、ラジオ体操、お祭りなどの地域活動の運営と補助。 ③地震防災学習の推進 ・1学年を中心とした、外部と連携した地震防災学習の実施。	「人の役に立つ人間になりたいと思う」 ・生徒アンケート　R5:96.5　R6:92.9　⇒継続 「地域社会をよくするために何かしたい」 ・生徒アンケート　R6:82.2　⇒85% 「学校は防災、防犯、事故防止によく配慮している」 ・保護者アンケート　R6:82.6　⇒85% 「基本的生活習慣が定着するよう働きかけている」 ・保護者アンケート　R6:94.8　⇒96%
組織力の強化と人材育成	授業力向上学力の育成	○一人年1回の研究授業に取り組んだ。 ○教員が教育の動向にかかわる知識を学んでいる。 ○校内研修会では、専門講師の助言を受け、協議したり自分化したりすることができた。 ○個別最適の学びにeboardの導入を開始できた。 ●教科部会を定期的に設け、協議する時間を確保する。 ●学力の育成に、全教科で取組む必要がある。 ●家庭学習の習慣と学力の育成を探る必要がある。	教師も学び続ける姿を大切に ・教員自身も課題をもち、解決していくために学び続け、実効性のある授業改善を推進する。 ・学びあう集団を基盤とした、主体的で個別最適な学びを実現していく研修を推進する。 ・今の教育の動向に合わせ、教員が知りたい、学びたいテーマや学校の課題に即した内容によるプチ研修会を推進する。 ・家庭学習を見直し、生徒自身の学習を整えていけるような学習習慣作りをすすめる。 ・五感を使って繰り返すことによる学力定着の場面を設ける。 ・すべての教育活動において、学力を向上させるためのてだてや工夫を推進する。	①教員の日々の授業改善と自己研修の充実 ・一人1回以上の研究授業と校外研修の参加。 ・教育課題に合わせた自己研修、読書のすすめ。 ②効果的なICT活用の推進 ・ICT支援員との授業連携　一人1回以上。 ・振り返り、共有場面でのICTの積極的活用。 ③教科部会の定期的開催と研究 ・定期的な教科部会の開催。 ・教科書の読み方と読解力を高める工夫。 ・学力向上必須アイテムの効果的活用の検証。 ④生徒の家庭学習の充実 ・eboardの活用と自主学習のすすめ。	授業公開年間一人1回以上 「先生はわかりやすく授業を工夫してくれる」 ・生徒アンケート　R5:89.8　R6:91.6　⇒93% 「自分で考え学び方を工夫している」 ・生徒アンケート　R6:77.1%　⇒80% 「家庭学習時間1時間以上」 ・生徒アンケート　R4:58.4%　R6:51.0　⇒60% 全国学調・みえスタ　⇒正答率・CD層の割合　県平均以上 1年:国 +1.3　数 +4.7 2年:国 −0.2　数 −4.1　⇒　国 +5.0　数 −0.5 3年:国 −2.1　数 −0.5 3年CD層:　国43.9⇒50.0　数48.5⇒44.2
	組織力向上チーム鼓中	○教員間の信頼関係や協調性は良好であった。 ○若手教員に経験者の姿勢からのよい影響があった。 ○組織として複数対応がおおよそできた。 ○休暇を取りやすい雰囲気を職員間でつくれた。 ○目標やすることが具体的にわかり協力しやすかった。 ○提案がある程度は事前に打ち合わせができた。 ●学年間・担当者間で情報がうまく伝わっておらず、意識に差が生まれ、協力が得られない場面があった。 ●提出物や決まったことを徹底できないことがあった。	ONE FOR ALL ALL FOR ONE ・教職員間で信頼関係を築き、思いを伝えあい寄り添いあえる関係づくりに努める。 ・学年の壁を越え、全ての生徒に全ての教職員でかかわる。 ・学校の課題に対し全教職員で対応し、組織的な運営と、フォローしあい学びあう職員集団の実現をすすめる。 ・早期発見、早期対応、複数対応を基本とし、報告・相談・連絡の徹底をする。	①居心地の良い職員室の環境づくり ・日常的なあいさつ、声掛け。 ・「聴(訊)きあい学びあう」安心の職員集団。 ・研修会での対話場面の設定。　・環境美化。 ②複数対応 ・問題行動、保護者対応は複数で。 ・報告・連絡・相談の徹底。 ③上手なワークライフバランスの推進 ・計画的な休暇取得。 ・過重労働の削減、定時退校日の推進。 ・協働的で無理のない部活動運営。	「職場の先生から率直な指摘や意見がきける」 ・教員アンケート　R5:87.5%　R6:100%　⇒維持 「この学校の先生は互いに信頼しあっている」 ・教員アンケート　R5:89.8%　R6:100%⇒維持 定時退校日の設定と推進　R5　月2日　9割　⇒維持 部活動休養日週2日　R5　100%　⇒維持 時間外労働時間の縮減(12月現在) 月45時間超　R5:91人　R6:77人　⇒0人 休暇日数(特休含)R5:16.5日　R6:15.9日⇒年間20日
	小中外部連携	○ボランティアの活躍により環境美化が向上した。 ○保護司メンバーによる部活動見守り協力があった。 ○地域の知的財産を校内に生かすことができた。 ○校区の学校運営協議会により協力体制ができた。 ○小中連携の4つの部会の会議を持つことができた。 ●ボランティアの世代交代と引継ぎ。 ●さらなる地域の文化遺産、保護者世代の人材の発掘と活用。	学校の枠を超えた教育活動組織の強化 ・学校運営協議会の活性化により、地域、保護者、学校が一体となった教育活動を進める。 ・円滑な教育活動や環境美化を維持するため、地域Coを中心としたボランティアさんの活躍をすすめる。 ・外部団体への協力を要請し、学校支援の幅を広げる。 ・義務教育9年間の意識を持った小中連携を進め、課題を共有し解決に向かう道筋を立てていく。	①学校運営協議会の活性化 ・地域Coからのボランティア募集の推進。 ・PTA奉仕作業への地域住民の参加促進。 ・地域講師による地域課題学習の実施。 ②PTAや他団体との連携促進 ・保護司会や白子交番、社会福祉協議会との連携。 ③小中連携 ・生徒指導・支援、不登校、学力向上、人権の4部会を中心とした会議を持ち、情報共有と行事を開催。 ・年6回の校区校長会の開催。	「地域の活動に参加したい」 ・生徒アンケート　R5:65.2　R6:64.7　⇒70% PTA除草活動への地域の参加　30名以上 地域ボランティア組織の確立と活動推進 ・登録者数　R5:12名　R6:17名　⇒増員20名 ・年間を通じてのボランティア計画の作成 地域行事等への積極的参加　⇒生徒全員年1回以上